

令和4年度事業計画

公益財団法人 滋賀県陶芸の森

1 基本方針

陶芸の森は、滋賀県の伝統文化であり重要な産業である信楽焼をベースに、「陶芸文化創造の世界的拠点」となることを目指している。

令和4年度は、県および甲賀市からの指定管理第4期（5年間）の2年目となり、第4期中期経営計画に基づいて引き続き、誘客の推進、国際的な情報発信、魅力ある展覧会の開催、次世代育成などの事業を積極的に展開し、陶器産業の振興と陶芸文化の向上に寄与する。

さらに、信楽窯業技術試験場（以下「試験場」という。）が陶芸の森の隣接地に移転することから、より一層連携を深め、陶器産業の振興支援策を進める。

なお、新型コロナウイルス感染症の流行など、先行きが不透明な部分もあるが、新しい生活様式に対応した事業展開が求められる中で、陶芸の森がより一層、来園者や地域から親しまれ、利用される施設となるよう、新たな取組についても模索する。

2 事業計画

(1) 県民に親しまれる施設運営に関する事業

ア 公園の魅力の向上

太陽の広場や星の広場などの公園機能の充実を図り、来園者に対して快適な空間の提供とサービスの向上に努める。

イ 地域の観光拠点としての集客促進事業

陶芸の森の地域資源を活かしながら、やきものファンに信楽をより知ってもらう陶芸制作講座の開催や、作家が直接販売するマーケット、一般参加型のイベントを開催・誘致するなど、来園者にとって魅力的な陶芸の森を創る。

(2) 地元陶器産業の振興に関する事業

ア 信楽窯業技術試験場との連携事業

試験場移転記念展「ジャパン・スタイル」に併せて、試験場に在籍し活躍した作家・熊倉順吉や、信楽で作品制作を行った作家・八木一夫らが、デザインを手掛けた干支をテーマとして、ガチャガチャグッズの商品化を試みる。また、試験場の研修生に対し、アーティスト・イン・レジデンスで来館している作家や職員による座学を定期的に行い、アートやデザイン感覚等の向上を図る機会を提供するとともに、試験場のVR技術のノウハウを活用し、陶芸館所蔵品のデジタル情報を順次追加することで、アーカイブサイトの充実を図り、インターネットによる展覧会の開催を試みる。

イ 信楽高等学校への支援事業

信楽高等学校の各学年に対し、陶芸の森で授業を行い、信楽高等学校地域支援協議会等の地域団体と連携して地域での人材育成に努める。

ウ 若手陶器産業後継者等への支援事業

陶芸館ミュージアムショップの「ガチャガチャ」の商品開発等を目的に作品の公募を行う。デザインの優れたモデルについては、賞を授与するとともに、陶芸の森が一定数を購入してミュージアムショップの「ガ

チャガチャ」で販売し、若手陶器産業後継者等への支援の一助とする。

(3) 陶芸文化の向上と交流に資する事業

ア 展覧会開催事業

新しい視点を交えながら、多彩な魅力あふれる展覧会を開催し、陶芸文化の向上を図る。また、令和4年度に試験場が陶芸の森隣接地へ移転整備されることを記念し、陶芸の森との連携強化の一環として、試験場の業績を取り上げた展覧会を開催する。

(ア) 信楽窯業技術試験場移転記念展「ジャパン・スタイルー信楽・クラフトデザインのあゆみ」展

(イ) 特別展「土に託されたきらめきー子どもたち×アーティスト／セラミックス最先端」展

(ウ) 特別企画「静中動：韓国のスピリットをたどるー開かれた陶のアート」展

(エ) 特別企画「湯呑茶碗ー日本人がこよなく愛したやきもの」展

(オ) 陶芸館ギャラリー企画

イ 創作事業（AIR事業）

国内外からスタジオ・アーティスト（研修作家）の受入れや、ゲスト・アーティスト（招聘作家）の招聘などを行い、やきもの産地特有の伝統的な要素と現代のトレンドとの交流を活発化させる。

また、国内外の類似機関との連携を強化し、陶芸家の派遣も含めた仕組みを文化庁の補助金を活用して継続実施し、陶芸文化について信楽から世界に向け積極的に発信する。

なお、新型コロナウイルス感染防止対策を十分に講じたうえで、入国制限が解除された国々から受け入れを再開することとし、受入れを延期した作家たちを優先する。

ウ 子どもやきもの交流事業

陶芸の森の特性を活かし、やきものに関する鑑賞や体験事業を様々な形で展開する。学校との連携プログラムをさらに充実させることで、信楽焼を始めとした陶芸文化の普及や陶芸の森へのリピーター確保を促進し、次世代の陶芸の森ファン獲得に繋げる。

また、「世界にひとつの宝物づくり事業」と連携し、子どもたちや障がいがある人の造形活動に対して支援する。

(4) 企画事業

来園者に対し、展覧会図録や陶芸関係書籍およびオリジナルグッズ、特別展開連商品など独自色のある商品の販売を行う。

併せて、インターネットを活用したオンラインショップによる商品提供や、民間事業者と連携した企画実施により販売を促進する。

収 支 予 算 書

自 令和 4 年 4 月 1 日
至 令和 5 年 3 月 31 日

(単位 千円)

| 科 目 | 本 年 度 | 前 年 度 | 比 較 | 備 考 |
|----------------------|---------|---------|-----|-------|
| I 一般正味財産増減の部 | | | | |
| 1 経常増減の部 | | | | |
| (1) 経常収益 | | | | |
| 基本財産運用益 | 1 | 3 | △ | 2 |
| 事業収益 | 230,941 | 232,736 | △ | 1,795 |
| 受取補助金等 | 1,200 | 1,380 | △ | 180 |
| 雑収益 | 1,799 | 1,733 | | 66 |
| 経常収益計 | 233,941 | 235,852 | △ | 1,911 |
| (2) 経常費用 | | | | |
| 事業費 | 230,629 | 231,580 | △ | 951 |
| 管理費 | 4,312 | 4,272 | | 40 |
| 経常費用計 | 234,941 | 235,852 | △ | 911 |
| (うち人件費) | 98,156 | 97,047 | | 1,109 |
| 評価損益等調整前当期経常増減額 | △ 1,000 | — | △ | 1,000 |
| 評価損益等計 | — | — | | — |
| 当期経常増減額 | △ 1,000 | — | △ | 1,000 |
| 税引前当期一般正味財産増減額 | △ 1,000 | — | △ | 1,000 |
| 法人税、住民税及び事業税 | 2,000 | 2,000 | | — |
| 当期一般正味財産増減額 | △ 3,000 | △ 2,000 | △ | 1,000 |
| 一般正味財産期首残高 | 130,932 | 132,932 | △ | 2,000 |
| 一般正味財産期末残高 | 127,932 | 130,932 | △ | 3,000 |
| II 指定正味財産増減の部 | | | | |
| 受取寄付金 | 100 | 100 | | — |
| 当期指定正味財産増減額 | 100 | 100 | | — |
| 指定正味財産期首残高 | 31,234 | 31,134 | | 100 |
| 指定正味財産期末残高 | 31,334 | 31,234 | | 100 |
| III 正味財産期末残高 | 159,266 | 162,166 | △ | 2,900 |

収 支 予 算 書 内 訳 表

自 令和 4 年 4 月 1 日
至 令和 5 年 3 月 31 日

(単位 千円)

| 科 目 | 公益目的 事業会計 | 収益事業 等 会 計 | 法人会計 | 内 部 取 引 消 去 | 合 計 |
|----------------------|--------------|---------------|----------|----------------|---------|
| I 一般正味財産増減の部 | | | | | |
| 1 経常増減の部 | | | | | |
| (1) 経常収益 | | | | | |
| 基本財産運用益 | 1 | - | - | - | 1 |
| 事業収益 | 202,981 | 27,959 | - | - | 230,941 |
| 受取補助金等 | 1,200 | - | - | - | 1,200 |
| 雑収益 | - | 1,790 | 9 | - | 1,799 |
| 経常収益計 | 204,182 | 29,749 | 9 | - | 233,941 |
| (2) 経常費用 | | | | | |
| 事業費用 | 213,135 | 17,494 | - | - | 230,629 |
| 管理費用 | - | - | 4,312 | - | 4,312 |
| 経常費用計 | 213,135 | 17,494 | 4,312 | - | 234,941 |
| (うち人件費) | 93,986 | 1,949 | 2,221 | - | 98,156 |
| 評価損益等調整前当期経 常増減額 | △ 8,953 | 12,255 | △ 4,302 | - | △ 1,000 |
| 評価損益等計 | - | - | - | - | - |
| 当期経常増減額 | △ 8,953 | 12,255 | △ 4,302 | - | △ 1,000 |
| 他会計振替額 | 5,964 | △ 5,964 | - | - | - |
| 税引前当期一般正味財産 増減額 | △ 2,989 | 6,291 | △ 4,302 | - | △ 1,000 |
| 法人税、住民税及び事業 税 | - | 2,000 | - | - | 2,000 |
| 当期一般正味財産増減額 | △ 2,989 | 4,291 | △ 4,302 | - | △ 3,000 |
| 一般正味財産期首残高 | 140,757 | 36,379 | △ 46,204 | - | 130,932 |
| 一般正味財産期末残高 | 137,767 | 40,670 | △ 50,506 | - | 127,932 |
| II 指定正味財産増減の部 | | | | | |
| 受取寄付金 | 100 | - | - | - | 100 |
| 当期指定正味財産増減額 | 100 | - | - | - | 100 |
| 指定正味財産期首残高 | 16,234 | - | 15,000 | - | 31,234 |
| 指定正味財産期末残高 | 16,334 | - | 15,000 | - | 31,334 |
| III 正味財産期末残高 | 154,101 | 40,670 | △ 35,506 | - | 159,266 |

資金調達および設備投資の見込みについて

自 令和 4 年 4 月 1 日

至 令和 5 年 3 月 31 日

1 資金調達の見込みについて

なし

2 設備投資の見込みについて

なし

令和3年度事業報告

公益財団法人 滋賀県陶芸の森

1 事業概要

陶芸の森は、滋賀県の伝統文化であり重要な産業である信楽焼をベースに、「陶芸文化創造の世界的拠点」となることを目指している。

令和3年度においては、県および甲賀市からの指定管理第4期（5年間）の初年度として、新たに第4期中期経営計画を策定し、管理運営目標の達成に向けて施設の適切な運営管理に努めた。

なお、前年度に引き続き、新型コロナウイルス感染症拡大の影響を受けて、本県においても再び緊急事態宣言が発令され、事業の中止や延期を余儀なくされる状況であったが、地元企業との連携による展示イベント開催や、野外展示作品の再構築に着手するなど、陶芸の森の魅力ある空間づくりに向けた新たな取り組みも試みたところである。

また、信楽窯業技術試験場（以下「試験場」という。）の令和4年度の隣接移転を見据え、より一層の連携を深める中で、試験場の業績を取り上げた移転記念展を開催するとともに、試験場の技術協力を受けてバーチャルミュージアムの充実を図った。

そうした中で、陶芸の森入園者数は、上述のとおり新型コロナウイルス感染症の影響もあったが、目標の35万人を上回る 352,159人であった。

2 事業実績

(1) 県民に親しまれる施設運営に関する事業

ア 公園の魅力の向上

人々が自由に憩い楽しめるよう、太陽の広場や星の広場などの公園機能の充実を図り、来園者に対して快適な空間の提供とサービスの向上に努めた。

イ 地域の観光拠点としての集客促進事業

陶芸の森の地域資源を活かしながら、やきものファンに信楽をより知ってもらうために、新型コロナウイルス感染症拡大防止対策を講じた上で、陶芸体験講座として「しがらき学ノススメ」や一般参加型のイベントを開催した。

(2) 産業の振興に関する事業

ア 試験場との連携事業

試験場移転記念展の開催を機に、かつて八木一夫や熊倉順吉らが試験場でデザインを手掛けた干支を商品化し、再生産に繋げる試作（ガチャガチャグッズ）に着手した。また、滞在アーティストのトークショーに試験場研修生等を招き、アートやデザイン感覚の向上を図る機会を提供するなど、相互交流の場を設けて連携を深めた。

イ 信楽高等学校への支援事業

人材育成事業として、信楽高等学校の支援を信楽高等学校地域協議会等の地域団体と連携して行い、地域での人材育成に努めた。

(3) 陶芸文化の向上と交流に資する事業

ア 展覧会開催事業

年間を通じて下記の4つの展覧会事業とギャラリースペースを活用した陶芸館独自の企画展を行った。

- (ア) 特別展「神業ニッポン 明治のやきもの一幻の横浜焼・東京焼」展
- (イ) 特別展「Human and Animal土に吹き込まれた命21世紀陶芸の最先端 Part 1 子どもたちとともに」
- (ウ) 特別展「Human and Animal土に吹き込まれた命21世紀陶芸の最先端 Part 2 アーティストたちに迫る！」
- (エ) 信楽窯業技術試験場移転記念展「ジャパン・スタイルー信楽・クラフトデザインのあゆみ」
- (オ) 陶芸館ギャラリー企画

イ 創作事業（AIR事業）

国内外からのスタジオ・アーティスト（研修作家）の受入れや、ゲスト・アーティスト（招聘作家）の招聘などを行うことによって、やきもの産地特有の伝統的な要素と現代トレンドとの交流を活発化させた。なお、前年度に引き続き、新型コロナウイルス感染症に係る渡航制限措置が執られたため、国内在住のアーティストを中心に受入れを行った。

ウ 子どもやきもの交流事業

陶芸の森の特性を生かした、やきものに関する鑑賞教育や体験教育の場を「つつっこプログラム」として提供し、将来にわたる陶芸の森ファンの獲得に努めるとともに、子ども達や障がい者の造形活動に対して支援した。なお、新型コロナウイルス感染症拡大防止のため、児童生徒間で水入れや筆などの道具を共用させない、デモンストレーションは小人数単位で実施するといった対策を講じて事業を実施した。

(4) 企画事業

ミュージアムショップを運営し、展覧会関連商品、オリジナル商品、陶芸関係書籍を販売した。また、インターネットを活用したオンラインショップでの商品の提供や販売の促進に努めた。

正味財産増減計算書

自 令和 3 年 4 月 1 日

至 令和 4 年 3 月 31 日

(単位 円)

| 科 目 | 本 年 度 | 前 年 度 | 比 較 |
|----------------------|-------------|-------------|--------------|
| I 一般正味財産増減の部 | | | |
| 1 経常増減の部 | | | |
| (1) 経常収益 | | | |
| 基本財産運用益 | 601 | 3,001 | △ 2,400 |
| 特定資産運用益 | 1,132 | 5,741 | △ 4,609 |
| 事業収益 | 235,117,937 | 246,504,039 | △ 11,386,102 |
| 受取補助金等 | 11,244,141 | 7,690,000 | 3,554,141 |
| 雑収益 | 692,533 | 913,111 | △ 220,578 |
| 経常収益計 | 247,056,344 | 255,115,892 | △ 8,059,548 |
| (2) 経常費用 | | | |
| 事業費 | 242,646,736 | 249,706,592 | △ 7,059,856 |
| 管理費 | 4,206,504 | 3,886,780 | 319,724 |
| 経常費用計 | 246,853,240 | 253,593,372 | △ 6,740,132 |
| (うち人件費) | 99,198,442 | 100,859,743 | △ 1,661,301 |
| 評価損益等調整前当期経常増減額 | 203,104 | 1,522,520 | △ 1,319,416 |
| 評価損益等計 | — | — | — |
| 当期経常増減額 | 203,104 | 1,522,520 | △ 1,319,416 |
| 税引前当期一般正味財産増減額 | 203,104 | 1,522,520 | △ 1,319,416 |
| 法人税、住民税及び事業税 | 995,000 | 1,354,500 | △ 359,500 |
| 当期一般正味財産増減額 | △ 791,896 | 168,020 | △ 959,916 |
| 一般正味財産期首残高 | 176,460,821 | 176,292,801 | 168,020 |
| 一般正味財産期末残高 | 175,668,925 | 176,460,821 | △ 791,896 |
| II 指定正味財産増減の部 | | | |
| 特定資産運用益 | 6 | 7 | △ 1 |
| 受取寄付金 | — | 10,000 | △ 10,000 |
| 当期指定正味財産増減額 | 6 | 10,007 | △ 10,001 |
| 指定正味財産期首残高 | 30,993,178 | 30,983,171 | 10,007 |
| 指定正味財産期末残高 | 30,993,184 | 30,993,178 | 6 |
| III 正味財産期末残高 | 206,662,109 | 207,453,999 | △ 791,890 |

正味財産増減計算書内訳表

自 令和 3 年 4 月 1 日

至 令和 4 年 3 月 31 日

(単位 円)

| 科 目 | 公益目的 事業会計 | 収益事業 等 会 計 | 法人会計 | 内 部 取 引 消 去 | 合 計 |
|----------------------|--------------|---------------|-------------|----------------|-------------|
| I 一般正味財産増減の部 | | | | | |
| 1 経常増減の部 | | | | | |
| (1) 経常収益 | | | | | |
| 基本財産運用益 | 300 | — | 301 | — | 601 |
| 特定資産運用益 | — | — | 1,132 | — | 1,132 |
| 事業収益 | 203,182,338 | 31,935,599 | — | — | 235,117,937 |
| 受取補助金等 | 11,244,141 | — | — | — | 11,244,141 |
| 雑収益 | — | 692,200 | 333 | — | 692,533 |
| 経常収益計 | 214,426,779 | 32,627,799 | 1,766 | — | 247,056,344 |
| (2) 経常費用 | | | | | |
| 事業費 | 222,254,468 | 20,392,268 | — | — | 242,646,736 |
| 管理費 | — | — | 4,206,504 | — | 4,206,504 |
| 経常費用計 | 222,254,468 | 20,392,268 | 4,206,504 | — | 246,853,240 |
| (うち人件費) | 95,164,432 | 1,809,082 | 2,224,928 | — | 99,198,442 |
| 評価損益等調整前当期経常増減額 | △ 7,827,689 | 12,235,531 | △ 4,204,738 | — | 203,104 |
| 評価損益等計 | — | — | — | — | — |
| 当期経常増減額 | △ 7,827,689 | 12,235,531 | △ 4,204,738 | — | 203,104 |
| 他会計振替額 | 5,941,006 | △ 5,941,006 | — | — | — |
| 税引前当期一般正味財産増減額 | △ 1,886,683 | 6,294,525 | △ 4,204,738 | — | 203,104 |
| 法人税、住民税及び事業税 | — | 995,000 | — | — | 995,000 |
| 当期一般正味財産増減額 | △ 1,886,683 | 5,299,525 | △ 4,204,738 | — | △ 791,896 |
| 一般正味財産期首残高 | 164,067,668 | 47,240,370 | △34,847,217 | — | 176,460,821 |
| 一般正味財産期末残高 | 162,180,985 | 52,539,895 | △39,051,955 | — | 175,668,925 |
| II 指定正味財産増減の部 | | | | | |
| 特定資産運用益 | 6 | — | — | — | 6 |
| 当期指定正味財産増減額 | 6 | — | — | — | 6 |
| 指定正味財産期首残高 | 15,993,178 | — | 15,000,000 | — | 30,993,178 |
| 指定正味財産期末残高 | 15,993,184 | — | 15,000,000 | — | 30,993,184 |
| III 正味財産期末残高 | 178,174,169 | 52,539,895 | △24,051,955 | — | 206,662,109 |

貸 借 対 照 表

令和 4 年 3 月 31 日現在

(単位 円)

| 科 目 | 本 年 度 | 前 年 度 | 比 較 |
|----------------|-------------|-------------|--------------|
| I 資産の部 | | | |
| 1 流動資産 | | | |
| 現金預金 | 23,011,233 | 23,717,100 | △ 705,867 |
| 未収金 | 3,121,312 | 1,472,215 | 1,649,097 |
| 貯蔵品(販売品) | 1,956,153 | 1,810,320 | 145,833 |
| 流動資産合計 | 28,088,698 | 26,999,635 | 1,089,063 |
| 2 固定資産 | | | |
| (1) 基本財産 | | | |
| 基本財産引当資産 | 30,000,000 | 30,000,000 | — |
| 基本財産合計 | 30,000,000 | 30,000,000 | — |
| (2) 特定資産 | | | |
| 退職給付引当資産 | 52,633,819 | 64,612,262 | △ 11,978,443 |
| 売店改修積立資産 | 1,400,000 | 1,400,000 | — |
| 資産購入積立資産 | 5,504,264 | 5,028,117 | 476,147 |
| 記念事業等積立資産 | 4,000,000 | 4,000,000 | — |
| やきもの振興基金積立資産 | 993,184 | 993,178 | 6 |
| 特定資産合計 | 64,531,267 | 76,033,557 | △ 11,502,290 |
| (3) その他固定資産 | | | |
| 車両運搬具 | 239,940 | 359,729 | △ 119,789 |
| 什器備品 | 1,198,597 | 289,955 | 908,642 |
| 電話加入権 | 12,000 | 12,000 | — |
| 陶芸作品 | 152,577,000 | 152,577,000 | — |
| その他固定資産合計 | 154,027,537 | 153,238,684 | 788,853 |
| 固定資産合計 | 248,558,804 | 259,272,241 | △ 10,713,437 |
| 資産合計 | 276,647,502 | 286,271,876 | △ 9,624,374 |
| II 負債の部 | | | |
| 1 流動負債 | | | |
| 未払金 | 14,628,174 | 10,225,415 | 4,402,759 |
| 未払法人税等 | 995,000 | 1,354,500 | △ 359,500 |
| 未払消費税等 | 1,728,400 | 2,625,700 | △ 897,300 |
| 流動負債合計 | 17,351,574 | 14,205,615 | 3,145,959 |
| 2 固定負債 | | | |
| 退職給付引当金 | 52,633,819 | 64,612,262 | △ 11,978,443 |
| 固定負債合計 | 52,633,819 | 64,612,262 | △ 11,978,443 |
| 負債合計 | 69,985,393 | 78,817,877 | △ 8,832,484 |

| 科 目 | 本 年 度 | 前 年 度 | 比 較 |
|-----------------|--------------|--------------|-------------|
| Ⅲ 正味財産の部 | | | |
| 1 指定正味財産 | | | |
| 県 補 助 金 | 25,000,000 | 25,000,000 | — |
| 市 補 助 金 | 5,000,000 | 5,000,000 | — |
| 寄 付 金 | 993,184 | 993,178 | 6 |
| 指定正味財産合計 | 30,993,184 | 30,993,178 | 6 |
| (うち基本財産への充当額) | (30,000,000) | (30,000,000) | (—) |
| (うち特定資産への充当額) | (993,184) | (993,178) | (6) |
| 2 一般正味財産 | 175,668,925 | 176,460,821 | △ 791,896 |
| (うち特定資産への充当額) | (10,904,264) | (10,428,117) | (476,147) |
| 正味財産合計 | 206,662,109 | 207,453,999 | △ 791,890 |
| 負債及び正味財産合計 | 276,647,502 | 286,271,876 | △ 9,624,374 |